



チャレンジキャンプ2024

～仲間と共に踏み出す「自分の一歩」～

実施期間：令和6年7月 6日(土)～7月7日(日) 事前キャンプ
7月27日(土)～8月4日(日) 本キャンプ

目的・趣旨

- 参加者の「自己肯定感」を育成する。
本事業における「自己肯定感」とは、以下の2点としてとらえる。
 - ・ 自己を見つめ、自分の長所と短所、自信のあるところと、ないところの両方を受容し、体験をもとに、自らの成長を振り返り、自分を好きになること。
 - ・ 他者とのかかわりを通じて、他者の感性や考え方に触れ、理解したり、他者から学んだりして、自らを高めていくこと。
- 参加者の量的・質的変容等を調査分析し、その効果について普及する。
- 様々な課題を抱える子供たちやその周りの子供たちへの効果的な支援の在り方を検証し、学校現場へ発信する。

事業概要

【参加者数】 14名（小学校5年生～中学校3年生）、2グループ編成

【実施内容】

ステージ・期日	主な活動内容	活動のねらい
出合いのステージ 7月6日(土)～7月7日(日)	○開会式・全体会 ・キャンプのねらい ・本キャンプの活動内容や持ち物・装備 ・安全にキャンプを行うための注意事項 ○テント設置・野外炊事 ○テント泊 ○トレッキング(藤巻山登山) ○スタッフとの事前面談	・本キャンプに向けた話やトレッキング、野外炊事、テント泊などの体験活動を通して、見通しをもつ。 ・スタッフや仲間と出会い、共に様々な活動を行うことを通して、不安や悩みを軽減し、本キャンプへの意欲を高める。
協力のステージ 7月27日(土)～7月29日(月)	○開会式 ○仲間づくり ○歩き(海岸からキャンプ場) ○歩き(キャンプ場から自然の家) ○歩き(自然の家から野尻湖) ○野外炊事 ○テント泊	・キャンプ生活の基本的な生活習慣を身に付け、自分なりの目標をもつ。 ・グループの仲間とかかわり、役割を分担し、自分の役割に責任をもって取り組む。 ・身に付けた知識や技術、それまでの失敗を活かして活動を繰り返すことにより、自信をつける。 ・様々な活動を通して、グループの仲間とかかわり合い、他者を認めながら活動に取り組む。
自立のステージ 7月30日(火)～7月31日(水)	○水上アクティビティ(カヤック・サップ等) ○歩き(野尻湖から笹ヶ峰) ○野外炊事(1人で行う) ○テント泊(1人で泊まる)	・自分の力で活動に取り組む中で、自分が助けてほしいことを伝えたり、どのようにしたら問題が解決するかを考えたりする。 ・グループの仲間と合意形成を図り、他者を認め合いながら活動に取り組む。 ・1人の時間を作り、自分と向き合いながら、仲間の大切さに気付く。
挑戦のステージ 8月1日(木)～8月2日(金)	○火打山登山 ○ビュッテ泊 ○妙高山登山	・困難な状況においても、自分の力を信じ、あきらめずに活動に取り組む。 ・グループの仲間と声を掛け合い、助けが必要な場面で適切に仲間を支え、互いに協力して活動に取り組む。
未来につなげるステージ 8月3日(土)～8月4日(日)	○後片付け ○振り返り(個人・グループ) ○ゴールパーティー企画・実施 ○閉会式	・キャンプを通して学んだことや成長したことについて振り返る。 ・ともに活動してきたグループの仲間に対する感謝の気持ちや、キャンプの成功を祝うゴールパーティーを企画し、実施する。

事業のポイント

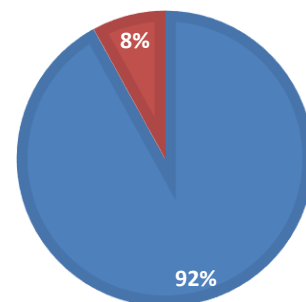
- 個に応じた支援を行うとともに、参加者一人一人が達成感を味わえるようにする。
- 本キャンプ全行程を5つのステージ（事前キャンプ1ステージ）に分け、その中で体験が次の学びに活かされるようにプログラムを構成し、参加者が自分の成長を実感できるようにする。
- 徒歩での移動や野外炊事など、同じ活動を繰り返すことで、その経験が蓄積され、子供たちが主体的に取り組むことにつながると考える。また、メニューや調理方法、食材の選択、買い出しなど、ステージの変化とともに段階的にねらいを設定していく。
- 1人の時間を確保し、自分と向き合う時間や仲間の大切さに気付く時間を設定した。
- 1グループにキャンプカウンセラーを2名（自然の家職員1名、学生スタッフ1名）配置し、健康管理・安全管理・記録にあたる。

成果

- 参加者の事業全体をとおした満足度は、「満足」「やや満足」を合わせて100%となった。
- チャレンジキャンプのビッグチャレンジとも言える火打山・妙高山の縦走登山をはじめ、100kmもの道のりを歩き、達成感や充実感を得たことが参加者の自信につながり、仲間と共に協力してキャンプを行ったことが他者に対する意識の向上につながった。

参加者満足度

■満足 ■やや満足



事業の様子



妙高山山頂



ソロ飯にも挑戦！



カヤック・SUP体験



険しい山道を一步一步進みます

参加者の声

- 1人でテントを立てたり、野外炊事ができるようになったけどそれでも仲間は大切なんだなと思いました。仲間への気遣いや声掛けがいかに大切か分かりました。
- 困ったとき、難しかったとき周りを頼ることを学んだ。

課題

- 夏の暑い時期の徒歩移動となるため、実施時期やルートを検討が必要である。
- 危険度の高い活動もあるため、スタッフの安全意識の向上や実地踏査が必要不可欠である。